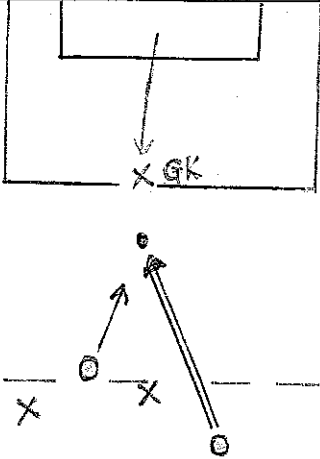
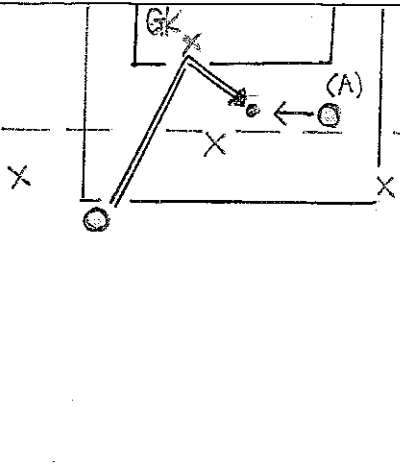
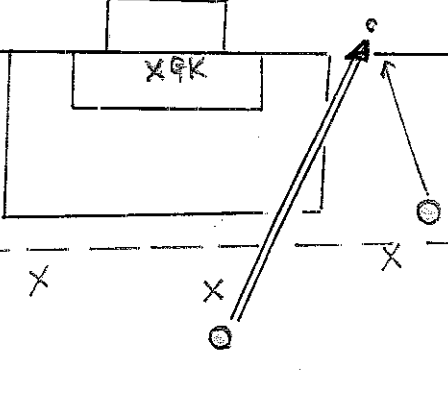


オフサイド

プレーに干渉	相手競技者に干渉	利益を得る
味方のパスやシュートなどのボールに反応してプレーする。あるいはボールに触れる	相手競技者の視線をさえぎる、動きを妨げる、惑わす、取り乱させる。それにより相手競技者がボールをプレー、もしくはプレーする可能性を妨げること	すでにオフサイドポジションにいて、ボールがポスト、バーの跳ね返り、あるいは相手から跳ね返ってきたボールをプレーすること

オフサイド	解説	図解
A) フラッグ UP	新ルールによりオフサイドの見極めをきちんとするため、副審がフラッグ UP するタイミング遅くてもいいことになっている。フラッグ UP は副審がオフサイドが成立したと判断して、フラッグが上がって、主審がオフサイドを採用して、ホイッスル鳴ったときオフサイドの反則となる。	<p>○ 味方 ↑ 味方の動き × 相手 ↑ ボールの動き ● ボール</p> <p>----- オフサイドライン</p>
B) 味方 1 人が抜け出した場合	完全に 1 人の選手が DF 裏に抜け出て、ボール追いかけた場合はボールに触れる前にフラッグ UP してもかまわない。選手や副審の無駄な走りを減らすため。但し、この時、別のオンサイド選手が走りこんできてないかはしっかり確認する。	
C) 味方 2 人がボールに対して反応した場合	2 人が同時にボール追いかけて、A がオフサイド、B がオンサイドのときはフラッグ上げるのを我慢する。B が先にボール触る可能性があるため。この場合、オフサイドをとるなら A が先にボールに触れた場合。	
D) 2 列目の飛び出し	副審がオフサイドと思って一列目の A 選手がボール追いかけていてボール触れる前にフラッグ UP しても、2 列目の飛び出し B 選手がいた場合主審がフラッグ下ろさしプレー続けさせることある。笛が鳴るまでプレー続ける。	

オフサイド

<p>E) GKとぶつかる可能性</p>	<p>裏に抜け出したオフサイドの選手とGKがぶつかる危険があると審判が判断した場合、怪我防止のために早めにフラッグ UP してもかまわない。明らかにGKが先にボールおさえると判断した場合は、アドバンテージとともいい。</p>	
<p>F) 味方のシュートがDFやGKにあたったボールに対する反応</p>	<p>味方選手がシュートした時点でオフサイドポジションにいた A 選手がDFやGKがこぼしたボールに対して反応してボールに触れた場合もオフサイドとなる (オフサイドポジションにいて利益得たため)</p>	
<p>G) ゴールキックやスローインになる場合</p>	<p>味方のパスやシュートに対して、オフサイドポジションにいた選手が反応しても、そのままタッチラインやゴールラインきると判断した場合はフラッグ UP せずそのままゴールキック、スローインで再開。(この場合、利益を得たことにはならないため。但し、審判がプレーの干渉認めた場合オフサイドとなることある)</p>	
<p>H) 相手競技者に干渉する場合</p>	<p>ロングパスやクロスなど、それに対しDFがクリアあいやとする場合、オフサイド選手がそれに対して直接競りにいたり、あるいはクリアするプレーの可能性を妨げたと審判が判断したらオフサイド(動きや身振りで相手競技者を惑わしたということ)。但し普通にDFがカットしてそのままドリブルやパスつながらる場合アドバンテージとともいい。</p>	